

令和八年度 松阪看護専門学校前期入学試験問題 国語

(問題は三枚です。解答は、別紙の解答用紙に記入してください。)

問題一

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

近所にある六〇坪ほどの宅地跡が整地されて一週間も経たない内に、エノコロ草(ネコジャラシ)が集団で引越してきた。どこからやって来るのか、毎日毎日やってきて、一ヶ月目には、お互い①邪魔だとケンカしているんじゃないかと思うほどギョウギョウに背高く群生するエノコロ草の一角が出来上がってしまった。その勢いは止まる気配もない。

溝蓋の一センチほどの隙間にも芽を出す植物は、このコンクリートやアスファルトで敷き固められた人間の街に、ほんの少し開かれた「土」を嗅ぎつけては、へーアー人工衛星からナビゲーションでも受けているかのごとく、あつという間に居場所を作る。畑や空き地が宅地に変えられ、道路が舗装されても、中央分離帯のほんのわずかの土にまで、スマイレや彼岸花さえやってくる。

うちの小さな裏庭にも、蕨がせっかくの杉塀を②覆って、その触手を家の壁や雨樋にまで伸ばし、あげくは私が移植した、まだ弱々しい火花草や虫袋の根元を探るように進んできて、ついに二階のベランダにアメーバのように増殖しはじめている。美しい形と色に、しばし切り取り、あるいは抜き取ることを躊躇していると、台風に備えて下に降ろしたままころがっていた物干し竿にまでからみついて始末だ。

樹に「神」を感じるように、この蔓性植物には「邪悪」とさえ感じるほどの生命力が秘められている。へーイ、郊外に出ると何某かずらや葛、藪枯らしに覆いつくされて、大木さえ、元はなんだったのかわからないモンスターのような緑の塊になっている。

ほら、今もあの蕨は可愛い赤ちやんの手のような葉っぱを、少しずつ大きく、枝を一ミリ、一センチ、一〇センチと音も立てずに伸ばしている……。あまりの**a**オウボウぶりにやつと引きちぎると、小さな手形のような悪魔の**b**ハンテンを壁に汚く残していやがらせをする。黙ってじりじり進軍する蔓性植物のあの(1)粘り強さには、こまめに草抜きをしない私などは相手にもされていない。

世話や管理のことを思っただか、最近住宅街にめっきり緑の生垣が少なくなってしまった。垣根の葉っぱを一枚失敬して、丸めて作った笛をピープー鳴らしながら登下校する楽しみを、今の小学生はへーウー知らないだろうし、③尻尾を青く光らせるトカゲやヘビも、石垣のない住宅街では行き場を失っているにちがいない。

私は蔓バラやカロライナジャスミン、アイビーの素敵な**A**を空想して、頑なに緑の垣根にこだわっていたのに、片隅に植えた一九八円のワイヤープランツが、抜いても刈っても、ちよつと油断している内にもくもくと、**B**してしまつて、素敵だったのはほんの一年たらず。「大通りから東へ入って、草ボーボーのところですよ、家の場所を説明するのに役立つばかりなのだ。

じりじりと休むことのない植物の繁殖力の(2)ダイナミックな象徴を旅の雑誌の写真で見たことがある。二〇〇六年当時、荒れるがままにされていたカンボジアのタ・プローム寺院が、熱帯雨林の生命そのもののような巨大な榕樹に掴み取られるように覆われて、(3)今にもぬめぬめじわじわ溶かされそうになっている写真だった。インドネシアのポロブドゥール寺院もメキシコにある太陽のピラミッドも、発見が遅ければ、その上に積もった腐葉土に芽生えた植物で覆われて**c**ホウカイし、大地に帰っていったことだろう。

近所で一人暮らしを(4)されていた榎子さんが、家を始末して施設に(5)入られることになったのは、へーエ、コロナ禍の最中だった。愛情を込めて毎日世話をされていた榎子さんが届けて下さる庭の茶花で、雑然とした道喜の店先はどれだけ救われたことだろう。花の名前も随分教えていただいた。遠方から見舞われる娘さんたちのことを思つての施設への入所だったが、庭の木や花のことを我が子のごとく心配されていて、せめてもの恩返しにと**d**モンピの鍵を預かつて、珍しい茶花など希望される、縁ある人たちにお渡しする役目を④担っていた。

そこでは生垣の隙間に居場所を見つけた立浪草や螢袋、豆蕨や定家蕨も黄色や赤色を所々に散りばめて、みんな美しく幸せそうに咲いていた。私が真似をして買った鉢植えの梅花空木は榎子さんの庭の花のように凛と涼やかに育たず、二年もたず枯れてしまったのに、どの草花にも木にも彼女の気持ちを受け止めるように、花屋のものとは一味ちがった、庭の土や光からしか生まれたい自然でやさしい美しさがあった。

跡地にビルのような家が建てられると聞いて、ブルドーザーがあの花々を押し⑤潰していくのが忍びがたく、想像以上に深く埋められていた敷石を含めて、残っていた花木をできる限り、自宅の小さな裏庭に移したのだ。バケツに入れて土や草木を運ぶ時間を、私は生き生きと楽しく過ごしていた気がする。土に直に触れることは、人間にとって何かとても大切な行為なのじゃないだろうかとも思う。土と**e**シヤダンされた都市生活の中で、自らやがて土に帰ってゆく存在であることを人は忘れてしまいがちだ。

(川端知嘉子「たんぼぼの空」『図書』二〇二四年一二月号より)

問一

a

e

のカタカナを漢字に改めなさい。

(1)

問二 — 傍線部①～⑤の読み方をひらがなで記しなさい。

問三 空欄へア～エに入る適切なことばを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 ちよつと
- 2 決して
- 3 むしろ
- 4 まさに
- 5 まるで
- 6 あまり

問四 波線部(1)「粘り強さ」のことを、この箇所より前の部分ではどのように表現しているか、漢字三字で抜き出しなさい。

問五 空欄A・Bに入るそれぞれ適切な漢字二字から成る語句を本文中から選び、記しなさい。

問六 波線部(2)「ダイナミック」の意味として最もふさわしいものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 ノーベルが発明した爆薬
- 2 しげり増えること
- 3 生物の細胞が数を増す現象
- 4 未来の地に移住し、開拓すること
- 5 躍動的で力強さを感じさせるさま

問七 波線部(3)「今にもぬめぬめじわじわ溶かされそうになっている」ものは何か、十五字以内で本文中から抜き出しなさい。

問八 波線部(4)「され」、(5)「入られる」の文法的な説明について正しいものを一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 (4)は尊敬の動詞の連用形、(5)は動詞に尊敬の助動詞が付いたもの
- 2 (4)も(5)も動詞に受身の助動詞が付いたもの
- 3 (4)も(5)も動詞に尊敬の助動詞が付いたもの
- 4 (4)は使役の動詞の未然形、(5)は尊敬の動詞
- 5 (4)は自発の動詞の未然形、(5)は尊敬の動詞に受身の助動詞が付いたもの

問九 次の中で本文の内容と異なるものはどれか、一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 近所の宅地跡にネコジャラシが集団で引越してきてギユウギユウに群生してしまった。
- 2 私が移植した火花草や螢袋の根元を探るように進んできて、二階のベランダで増え始めた。
- 3 最近住宅街に緑の生垣が少なくなったのは、世話や管理のことを思っただけであろうか。
- 4 私は素敵な緑の垣根にこだわっていたのに、ちよつと油断しているうちに草ボーボーになってしまった。
- 5 私が真似をして買った鉢植えは、榎子さんの庭の花のように凛と涼やかに自然で優しい美しさがあった。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

たとえば、生涯の(ア)伴侶や好みの壁紙や自分にあったアイスならば、こちらの意志で選べるものだが、この世にはわが意志とは関係なく生まれた時から与えられるものがある。

ひとつめはA。外国に行つてたどたどしい外国語を使っていると、糞、なぜ、俺はこの国の人間に生まれなかつたのかと頭にくることがある。英国人や米国人の家に誕生していたなら、私だつてペラペラしゃべれた答だ。

ふたつめは名前。一生、使わねばならぬわが名はこの私がつけたものではない。誕生以前か、直後かしらぬが、私は勝手に周作などという(イ)劍豪のような名前を与えられた。

我々はなぜ生涯、ひとつの名前で社会に生きるのだろうか。名はその人のイメージにつながる。我々は自分のなかに色々なBを持つているのに、自分のイメージをたつたひとつの名で考えられてはかなわない。

私は狐狸庵先生と呼ばれるようになって久しいが、そのお陰で遠藤周作という幾分深刻なイメージからかなり抜け出ることができた。ややもすると、遠藤周作という名ではbケイエンされて、近寄つてくれなかつたオジさん、オバさん、大学生、高校生からも親しんでもらえたのはこの別名のお蔭である。

C、私は「生きる智慧」として皆さんにも本名のほかに、もうひとつ別名をつけることをお奨めする。私のように堅くらしい名を持った人、D 元来糞真面目すぎて友人の少ない人、実際の狭い方は本名のほかに他人から親しまれるいささかユーモアのある名をもうひとつ持つといい。本名石井堅太郎さんなら別名石井屯平とか風助とされては(ウ)如何だろう。

E 会社や仕事の世界では堅太郎という本名で生きる。しかし、仕事後一步会社の外に出れば「俺はこの瞬間から石井屯平である」と心に言いきかせてみる。すると一日が堅太郎の生活と屯平との生活という面白い二重構造ができ、今まで単調だった毎日の色彩がいささか立体的に変わってくるものである。(X)それほど自分に与えられた名前の力とは魔力的なのだ。

(2) 動脈硬化は肉体的なものだけではない。思想の動脈硬化もあれば、心の動脈硬化もある。その硬化を防ぐ一法

として自分に「もうひとつの名」をつけることで片寄りがちな心にバランスを与え、**ジュウナン**に思うが、今日の日曜日(*)、家族の食卓でこの愚案を検討していただきたい。

(遠藤周作『万華鏡』(朝日文学文庫) 1963.1)
(*)「今日の日曜日」||このエッセイは「朝日新聞」の日曜日版の家庭欄に連載されていたもの。

問一 **a** **c** のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部(ア) (ウ) の漢字の読み方をひらがなで記しなさい。

問三 空欄 **A** に当てはまる語句を次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 移民
- 2 世界
- 3 土地
- 4 国籍

問四 空欄 **B** に当てはまる語句を次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 夢
- 2 多様性
- 3 二面性
- 4 普遍性

問五 空欄 **C** **E** を補うのに最も適当な語句を次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 なお
- 2 しかし
- 3 そして
- 4 だから
- 5 あるいは
- 6 ところが

問六 傍線部(X)「それほど自分に与えられた名前の力とは魔力的なのだ。」とあるが、筆者は「名前の力」とはどういうものだと考えているか、次の文の空欄() **に十字以内で記しなさい。**

↓【鮮烈にその人の() **もの。**】

問七 波線部「一生、使わねばならぬわが名」とあるが、「使わねば」の「ね」と「ならぬ」の「ぬ」について、次の中で正しい説明の文を一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「ね」は未然形で、「ぬ」は終止形である。
- 2 「ね」は未然形で、「ぬ」は連体形である。
- 3 「ね」も「ぬ」も動詞の活用の一部である。
- 4 「ね」も「ぬ」も打ち消しの助動詞である。
- 5 「ね」は「なく」に、「ぬ」は「ない」に言い換えることができる。

問八 この文章で言いたいこととはどのようなことか、次の中で最もよいものを選び、番号で記しなさい。

- 1 外国語も、その国に生まれていれば、すらすらよどみなく話せるということ。
- 2 周作が狐狸庵先生と呼ばれて、イメージを変えたこと。
- 3 名前のもつイメージによっては、親しんでもらえないこと。
- 4 本名と別名の三重構造は、一種の動脈硬化であること。
- 5 自分にもうひとつの名をつけることで心にバランスを与えること。

問題三 次の①・③の傍線部の漢字の読み方をひらがなで記し、②・④・⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

◎ 国がまるごと水没してしまうかもしれない。そんな怖さを実感したのは10年前、南太平洋の島国キリバスを訪ねた時だ。飛行機の着陸前に①環礁島を上空から眺め、サンゴ礁の美しさに感動した。翌朝、ボートで沖から同じ島を見て②ゼツクした。横から見ると、本当に薄くて真っ平らだったのだ。

キリバスの島々は平均標高が2メートルほどしかない。海面上昇の影響を受けやすく、「気候変動で最初に沈む国」の一つとされる。すでに③冠水で無人になった村もあり、内陸へ移った人も「ここも危ない。高所の逃げ場がない」と不安そうだった。

南太平洋では他の島嶼国家も水没の④キキに瀕している。この地域でサイクロンや⑤コウズイなどの被災地を訪ねると、同じ声を聞く。「先進国による気候変動のツケを払わされているのではないか」。

(朝日新聞 2025.7.25 「天声人語」前半部分)